

年長組、第二保育期

— 満五歳、満六歳 —

生活訓練

第四週

人の話をよく聞きさるこころは、實用から言つても、禮儀から言つても、極めて大切なこころである。しかも、その癖が往々にして缺けてゐる。所謂うはの空さいふ程ではなくこころも、しつかりこころの話に耳を傾けないのである。非常な惡癖であり、下品極まるこころである。ひきり差向ひの時は勿論、大勢で集つていつしよに話を聞いてゐる時でも同じである。その人の目をぢつとよく見つめながら、しつかりこ聞きさるやうに、いつの場合でもしつきたい。かういふ訓練は、すれば誰れにでも出来るこころであるし、心もちさへそうならば態度も自然そうなるこころであるから、充分嚴重に行はれていゝこころである。訓練の中には、相當子さ

の氣もちになつて、思ひやりからお手やわらかに出たいこころがあるが、かういふ種類のこころは手加減なく、しつかり實施したい。子さもだからさいつて、ゆるせない心の不作法だからである。それは、先生に對しての場合のみでなく、友達同志の間でも同じである。假りに目下に居るものに對しても同じである。

たゞし、これは小さい聲でそうこ申しこころだが、子さもが一人そ眞面目に聞き取つて呉れるこころになるさ、その顔に對しても、つまらない話は出来ないこころになる。

第五週

登園前及び歸宅後の家庭での挨拶のいろくを教へるこころも、今までだつてしてゐたこころであらうが、念のため

要である。家庭でも教へてゐるに相違ないが、幼稚園で先生からいはれたことは、親のいひつけよりもよく守ります。親の方でいつもいふのであるから、手傳ひの意味で訓練したい。但しかういふことをする時、餘り丁寧過ぎる言葉使ひなき教へて、形式に流れてはいけない。作法教授にさうもさういふ弊があつて困るのであるが、要は氣もちの訓練であるから、言葉使ひなきは、なるべく單純に子さもらしいのがいゝ。父上さま母上さま、私儀幼稚園に登城仕るで御座ります、まさかこいふ人もあるかも知れないが、お行儀々々で凝り出すと、ついこんな具合にならないことも限らない。お早うで澤山なのをお早う御座いますと無理に言はせやうとするのが、もう即ちそれだ。

それから、かういふ訓練に就ては、家庭の方さよく打ち合はせて置かなければならない。折角く子さもが、行つて参りますと頭を下げた時、おや御丁寧だねさか、アハ、、、そんな口上さで覺えて來たね、なんかさ言はれたらぶちこわしである。幼稚園で習つたのかね、感心々々。なんか、からかひよりは、いゝ譯だが、全く餘計なことだ。子さ

もが折角く言ふ挨拶には、こつちも正しく挨拶を以て應待する外あるべからざることではないか。そこらも、豫め打ち合はせてないさ、つい行き違ふであらう。

第六週

第七週

生活に中止ない限り、生活訓練にも中止なし。

第八週

自分製作品に對して、子さもはさういふ態度をこるべきか。——他人の製作品に對しては、そまつに見、そまつに扱ひ、況んや悪口をいつたりしないことは分りきつた心がけである。たゞ、さうもさういふかたが、多いもので、つい、けなしたりする。子さもの場合、大人の場合のやうに深い心からのことでないが、さうした態度が快心を與へるやうな癖がついてはならない。子さもだからさいつて、人の製作品に對する敬意はもつていゝ。必ずさうあらせなければならぬ。さころで、この訓練のために何より有效で、何より必要なことは、先生がいつも斯ういふ態度を以

て、幼児の製作品は勿論、一切のものに對するこゝである。これつまらないのね。へたくそね。なんていふ辛辣な言葉が一度でも先生の口から出るのを聞いたら、こりや痛快だし、子どもの心はいらぬ味を覺へて仕舞ふであらう。

さて、こゝろで、今度は自分の製作品に對する態度であるが、これは、大人の場合こちと違つて、そうく謙遜し、つまらないもので御座いましたか、お恥しい次第で御座りましたか、そんな態度をこつては却つて子どもらしくないであらう。あんまり自慢高慢も無邪氣過ぎると思ふが、七分の自慢、三分のきまりわるさこいつたこゝろが子どもらしい自然であらう。子どもの性質によるこゝで、一概には

誘導保育

第四週

敷物つゞき、粹ぬひ、かなり大きい布地に、みんなで六周りの枠縫をせねばならないので、今週一杯は充分かゝる。

男兒も女兒も殆んど残らずに參與した。

いへないが、自ら輕んじさせる風は決していゝいへない。殊に實際の取扱ひに於て、自分の製作品だからこいつて、無暗に捨てたり、破いたり、こわしたりするやうなこゝはよろしくない。それは作法的でないこゝよりも、心のすさみを思はせるこゝ、又心をすさませてゆくこゝで、堅く注意したい。

この問題は、またゆつくり研究して見たいと思ひますが、皆さんも是非充分によく考へて見て下さい。形でなく、ほんごうに心持ちの問題として、幼稚園訓練問題中、恐らく最も意義深く味はひ豊かな問題こいつていゝでせう。

果物模様ぬひひ込み、果物の輪廓をそれ／＼の色の布地に描かせて切り抜き、之をズックに布ごみ縫込むのである。前週に種類、大きさの大體の概念をつけて置いたので無駄なく出来る。模様のは、大人がズックに假縫をしてやつて